

<b>団体名</b>		人と野生生物の関わりを考える会					
<b>代表者</b>	<b>住所</b>	〒070-8061 北海道旭川市高砂台2丁目2-2-703号					
	<b>氏名</b>	柳田 和美	<b>電話</b>	090-7515-8901	<b>FAX</b>		
<b>事務局等</b>	<b>住所</b>	旭川市内					
	<b>氏名</b>	佐藤 伸高	<b>電話</b>	090-5222-1947	<b>FAX</b>		
<b>Eメール</b>	nobutakanobu@gmail.com		<b>ホームページ</b>				
<b>設立年次</b>	平成20年	<b>会員数</b>	約30名	<b>会則</b>	有・無		
<b>活動資金</b>	助成金および会員の寄付						
<b>☆設立(活動)目的</b>							
<p>・ 旭川市内の永山新川における野鳥への餌付けに対する自然環境への影響について市民に発信することを目的として発足しました。人と野生生物がどのような距離で関わっていくかを考え、餌付け問題や外来種問題、身近な自然環境について啓発活動を行っています。</p>							
<b>☆主な活動内容</b>							
<p>1 永山新川に設置された「生き物思いやり線」の管理  → 「生き物思いやり線」は物理的な障壁ではなく、人と野生生物がどのように関わっていくのかを考えていただく精神的な障壁として設置しています。思いやり線には啓発用パネルが設置されており、野鳥本来の生態や餌付けによる自然環境の攪乱、永山新川で観察できる野鳥についての解説を行っています。</p>							
<p>2 外来種アズマヒキガエルやウチダザリガニの捕獲調査や啓発活動  → 外来種問題は生態系の攪乱や農業被害など様々な問題を引き起こします。しかしカエルやザリガニなどについてはあまり知られていません。アズマヒキガエルやウチダザリガニは元々北海道にはいなかった生物です。これらの外来種の調査や捕獲を通して身近な自然の変化について啓発しています。</p>							
<p>3 パネルシアター(演劇)  → 演劇を通して身近な自然や外来種問題について啓発しています。演目は「カラスについて」と「アライグマとタヌキについて」があります。一般的にはカラスはゴミを漁る嫌われ者という認識がありますが、私たち人間がルールを守ってゴミを出すことができればカラスは悪者にはなりません。誰でも知っている身近な動物カラスを題材に、人と野生生物との関わりについて考えていただいています。  アライグマとタヌキに関しては、外来種であるアライグマが農業被害などを引き起こしていますが、本来彼らは日本に生息する動物ではなくペットブームにより北米から輸入された個体が捨てられたため野生化したことが原因と考えられています。アライグマを通して身近な自然の変化や、ペットとして飼った命に責任を持つことの大事さを啓発しています。</p>							

**☆近年の活動状況, 今後の活動予定等****<2014年活動>**

- ・ 4月19日 永山新川「生き物思いやり線」の移設と自然観察会
- ・ 7月17日 当麻小学校にてパネルシアター「カラスについて」の実施
- ・ 9月13日 市内富沢 神居の杜公園および富沢小学校において「外来種ヒキガエルを捕まえて学ぶ会」の開催
- ・ 秋 永山新川「生き物思いやり線」の移設

※ 来年度も上記の活動を継続して行う予定です。

**☆表彰その他受賞等**

